

# 平成25年度 病害虫発生予察情報

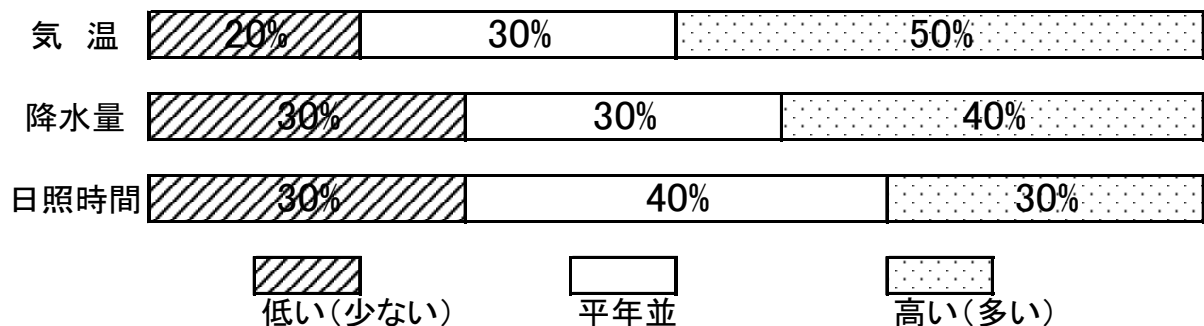
## 発生予報第4号（6月下旬～7月中旬）

平成25年6月24日  
島 根 県

予報の概要

区 分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	平年並～やや少ない		
		紋枯病	平年並		
		縞葉枯病	平年並		
		萎縮病	平年並		
		黄化萎縮病	平年並		
		ヒメトビウンカ	やや多い		
		ニカメイチュウ	やや多い		
		ツマグロヨコバイ	やや多い～平年並		
		セジロウンカ	平年並		
		トビイロウンカ	平年並		
		コブノメイガ	平年並		
		果樹	ナシ	黒斑病	多い
				黒星病	平年並
シンクイムシ類	平年並				
ハマキムシ類	やや少ない				
ハダニ類	平年並				
アブラムシ類	やや少ない				
カキ	カキ			円星落葉病	平年並
				カキミガ	平年並
				果樹全般	カメムシ類

中国地方1か月予報(6月22日～7月21日・広島地方气象台6月21日発表)  
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) イネ

(1) 葉いもち

予報内容

発生地方            県内全域

発生時期            平年並

発生量                平年並～やや少ない

予報の根拠

① 6月4～6日に実施した置き苗の調査（1019圃場対象）で発生を認めなかった（平年1.4%）。

- ② 6月13～17日の巡回調査で本田での発生は認めなかった（平年の発生圃場率1.3%）。
- ③ 常習発生地では育苗箱施薬の実施率が高い。
- ④ 向こう一か月の気象は本病の発生をとくに助長しない。
- (2) 紋枯病
- 予報内容
- |      |      |
|------|------|
| 発生地方 | 県内全域 |
| 発生時期 | 平年並  |
| 発生量  | 平年並  |
- 予報の根拠
- ① 前年の発生量が少なく、越冬菌量も平年に比べてやや少ないと考えられる。
- ② 常習発生地では育苗箱施薬が普及している。
- ③ 向こう一か月の気象は本病の発生にやや助長的である。
- (3) 縞葉枯病
- 予報内容
- |      |      |
|------|------|
| 発生地方 | 県内全域 |
| 発生量  | 平年並  |
- 予報の根拠
- ① 媒介虫のヒメトビウンカの発生量はやや多いと予想される。
- ② 本年調査した保毒虫率は1.2%と低かった。
- (4) 萎縮病
- 予報内容
- |      |       |
|------|-------|
| 発生地方 | 常習発生地 |
| 発生量  | 平年並   |
- 予報の根拠
- ① 媒介虫のツマグロヨコバイの発生量はやや多い～平年並みと予想される。
- ② 近年、本病の発生は極めて少なく、保毒虫率は低いと考えられる。
- (5) 黄化萎縮病
- 予報内容
- |      |       |
|------|-------|
| 発生地方 | 常習発生地 |
| 発生量  | 平年並   |
- 予報の根拠
- ① 向こう一か月の気象は本病の発生をとくに助長しない。
- (6) ヒメトビウンカ
- 予報内容
- |      |      |
|------|------|
| 発生地方 | 県内全域 |
| 発生量  | やや多い |
- 予報の根拠
- ① 6月下旬の巡回調査では、捕獲数は2.6頭/50株（平年0.3頭/50株）、発生圃場率は71.4%（平年9.9%）で発生量は平年に比べてやや多い。
- ② 6月23日までにネットトラップ(出雲市)、予察灯では捕獲されていない。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (7) ニカメイチュウ（第1世代）
- 予報内容
- |      |      |
|------|------|
| 発生地方 | 県内全域 |
| 発生時期 | 平年並  |
| 発生量  | やや多い |
- 予報の根拠
- ① 6月下旬の巡回調査では、被害株率は0.9%（平年0.3%）で発生量は平年に比べてやや多い。
- ① 予察灯、フェロモントラップにおける誘殺量は平年に比べてやや多い。
- ② 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (8) ツマグロヨコバイ
- 予報内容
- |      |          |
|------|----------|
| 発生地方 | 県内全域     |
| 発生量  | やや多い～平年並 |
- 予報の根拠
- ① 予察灯における誘殺量は平年並みである。
- ② 6月下旬の巡回調査では、捕獲数は4.5頭（平年2.4頭/50株）、発生圃場率は57.1%（平年38.1%）で発生量はほぼ平年並みである。

- ③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。
- (9) セジロウンカ
- 予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 平年並
- 予報の根拠  
①ネットトラップへの初飛来は、出雲市で5月29日に観察された。予察灯への誘殺数はほぼ平年並みである。  
②6月下旬の巡回調査では、捕獲数は3.5頭(平年3.7頭/50株)、発生圃場率は92.9%(平年44.3%)で発生量はほぼ平年並みである。  
③向こう一か月の気象は本種の発生にやや助長的である。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。
- (10) トビイロウンカ
- 予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 平年並
- 予報の根拠  
①6月23日までに予察灯、粘着誘殺灯、ネットトラップで捕獲されていない。  
②6月下旬の巡回調査では圃場での発生は認められない。  
③向こう一か月の気象は本種の発生にやや助長的である。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。
- (11) コブノメイガ
- 予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 平年並
- 予報の根拠  
①6月23日までに予察灯、粘着誘殺灯、ネットトラップで捕獲されていない。  
②6月下旬の巡回調査では圃場において飛来成虫を確認した。  
③向こう一か月の気象は本種の発生にやや助長的である。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

## B. 果樹

### 1) ナシ

#### (1) 黒斑病

予報内容  
発生地方 ナシ(二十世紀)栽培地帯  
発生量 多い

#### 予報の根拠

①6月21日の巡回調査では、発病葉率13.2%(平年5.8%)であり、発生量は平年に比べて多い。

②向こう一か月の気象は本病の発生に助長的である。

注) 注意報第2号 参照

#### (2) 黒星病

予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 平年並

#### 予報の根拠

①6月21日の巡回調査では、発病葉率0.4%(平年1.1%)であり、発生量は平年並みである。

②向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

#### (3) シンクイムシ類

予報内容  
発生地方 県内全域  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

#### 予報の根拠

①フェロモントラップ(安来市、出雲市)でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺盛期はやや遅く、誘殺数は平年並みである。

②向こう一か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 平年並  
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 県予察圃場（出雲市）のフェロモントラップにおけるハマキムシ類雄成虫の誘殺盛期は平年並み、誘殺数はやや少ない。
- ② 向こう一カ月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

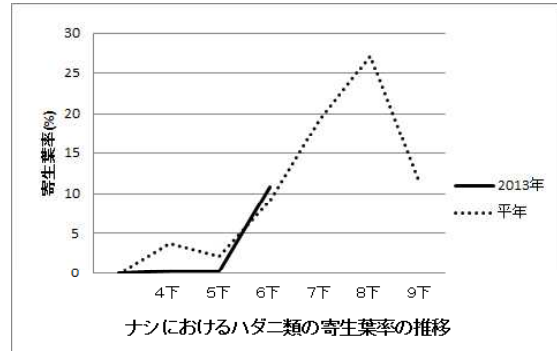
(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の発生量は寄生葉率10.9%（平年9.1%）、寄生虫数26.3頭（平年22.4頭と平年並みである（グラフ参照））。
- ② 向こう一カ月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。



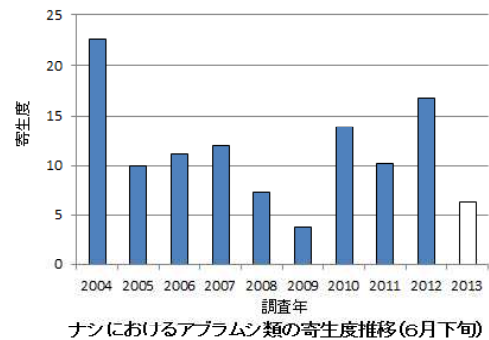
(6) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 6月下旬の寄生新梢率6.3%（平年13.4%）、寄生程度2.3（平年6.4）と少ない（グラフ参照）。
- ② 黄色水盤への有翅虫飛来数は平年並みである。
- ③ 向こう一カ月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。



2) カキ

(1) 円星落葉病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量（感染量） 平年並

予報の根拠

- ① 前年の発生は平年と比べてやや少なく、伝染源量もやや少ないと考えられる。
- ② 向こう一カ月の気象は本病の発生に助長的である。

(2) カキミガ（第1世代）

予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 前年の第2世代幼虫による被害は平年並みであり、越冬量は平年並みと考えられる。
- ② 向こう一カ月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

### 3) 果樹全般

#### (1) カメムシ類

予報内容

発生地方

県内全域（特にナシ無袋、カキ栽培地帯）

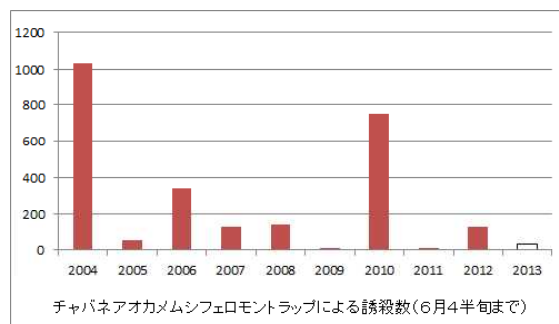
発生量

予報の根拠

① 6月第4半旬までのフェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺数は36頭（平成24年297.4頭）とやや少ない。

② 6月2半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの総誘殺数は102頭（平成24年121.1頭）で平成並み。

③ 向こう一カ月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。



#### 農薬の安全使用の徹底を！

- ・農薬の使用基準（適作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・防除の履歴（使用日、時間、場所、作物名、農薬の種類と量）を記録する。
- ・農薬の散布時期は農薬の効果が最大になるように注意する。
- ・水田で散布する場合は、農薬の飛散防止のために、必要最小限の農薬使用に努める。
- ・散水後、農薬の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

○病害虫防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。

島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>